



快適なデジタル顧客体験を。

例えば、あなたの会社のEC サイト、ページレスポンス速度を向上すると売上がどれだけ増えると思いますか？システムの障害発生時、運用チームが瞬間的にコードレベルで原因を特定できればどれだけ機会損失を防げるでしょうか？開発チームはどの機能に投資をすればユーザーは満足してサービスを継続利用してくれるでしょうか？

これらは New Relic が解決できるほんの一部の問題にすぎません。

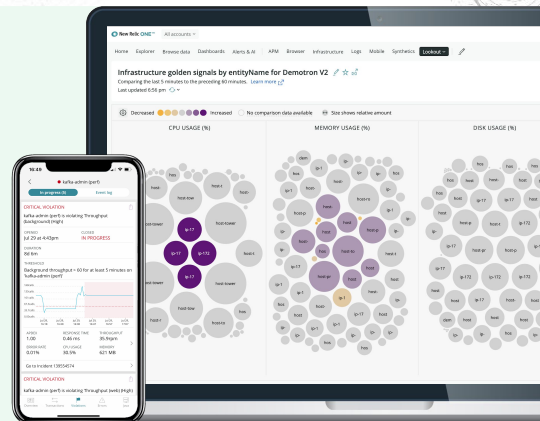
New Relic はたった1ライセンスで、システムの規模に関係なく、モバイルやブラウザ、アプリケーションからインフラまであらゆる領域のシステム状態を一元的に把握、エンジニアチームが常時システム性能を改善することを可能にします。このリアルタイム・システム分析の力は「オブザーバビリティ可観測性」と呼ばれ、デジタルビジネスを展開する企業の必須能力として採用されています。New Relic はこの「オブザーバビリティ」の力を1つのプラットフォームに凝縮して提供することで、あらゆる企業が「より完璧なデジタルビジネス」を実現するお手伝いをしています。

New Relic 株式会社

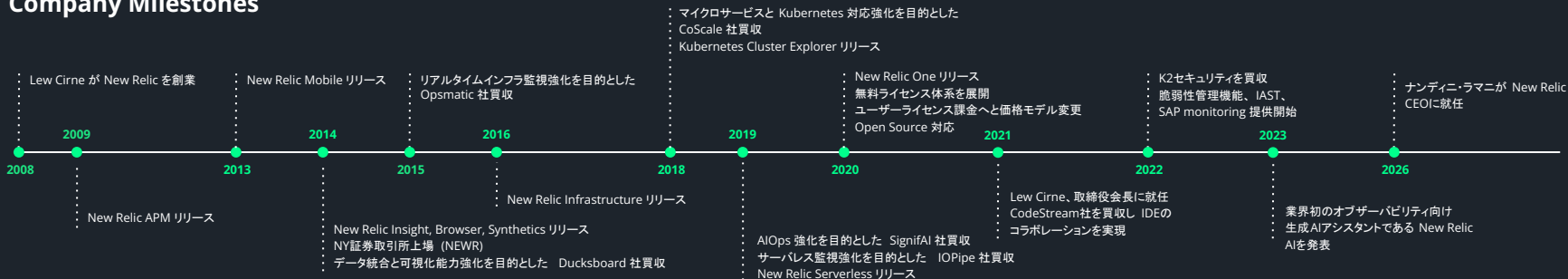
所在地	東京都中央区八重洲2-2-1 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー7階
設立	2018年
執行役員社長	古館 正清
事業内容	オブザーバビリティ・プラットフォームの提供

New Relic, Inc

創業者	ルー・サーニエ
CEO	ナンディニ・ラマニ
設立	2008年
従業員数	約 2,400人
拠点数	17 拠点



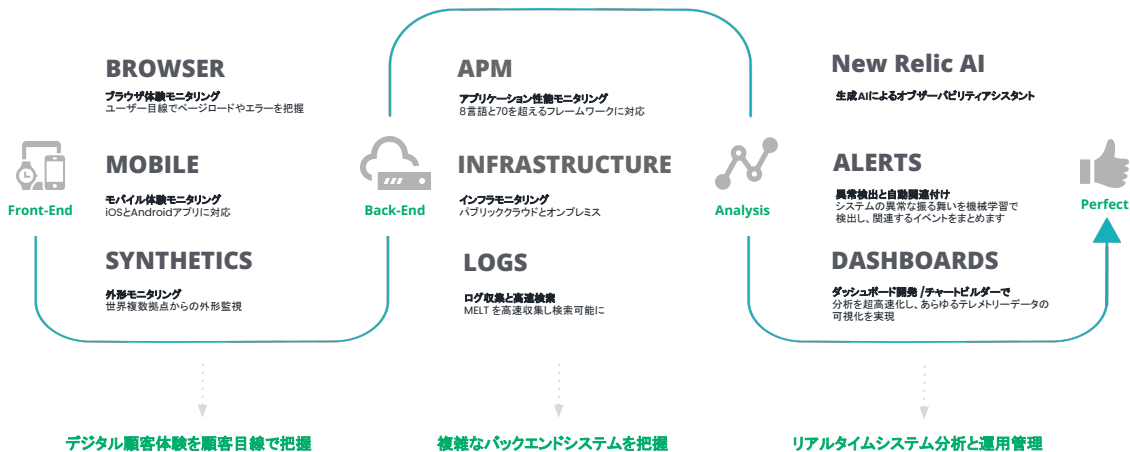
Company Milestones



New Relic

フロントエンドからバックエンドまで全てのデータを追跡し高速に分析

New Relic は1つのユーザーライセンスで、システムの規模を問わずフロントエンドからバックエンドまで以下の機能が使えますようになります。これら全てのデータは分散トレーシングによって追跡され、ユーザーがクリックしてから処理が返されるまでの全てを収集し、分析可能な状態を提供します。



開発での使い方

開発生産性の向上
本番環境で性能問題が発生した時、カナリアリリースで影響を回りたい時、どのようなケースでもデプロイの前後でコードレベルでの問題特定が可能です。開発者は問題修正にかかる時間を最短に短縮でき、新機能開発の速度向上、コードの品質向上につながります。

得られる効果指標の例
TTM (Time to Market) 短縮
デプロイ頻度とアップデートサイクル向上

運用での使い方

高可用性/安定運用/事業継続性
運用に期待されることはインフラの保守ではなく、サービスの安定稼働です。SREとしてサービスレベルを中心とした指標計測から、障害発生時の問題特定、改善ポイントの特定までを高速化することができ、サービス可用性を大きく向上させることに貢献します。

得られる効果指標の例
MTTR (平均障害回復時間) 短縮
サービスレベル/サービス継続性の維持向上
顧客満足度向上

システム設計での使い方

システムの費用対効果を最大化
効率性の高いシステムを設計するには、効率性を計測する必要があります。必要なキャパシティとレイテンシを常時計測することでアーキテクは次に必要なシステム要件を明らかにし、インフラリソースの消費も最適化することができます。

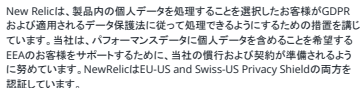
得られる効果指標の例
クラウド移行に伴う問題の削減
クラウドコストの最適化

プロダクト管理での使い方

サービスの顧客満足度と収益性の成長
プロダクトの責任者は、顧客満足度を向上させ収益性を拡大する責任があります。オフザバビリティを確保すれば、次に必要な機能の投資判断や、定着率や解約率などビジネスメトリクスとシステムを関連づけて把握し、市場が求める完璧なソフトウェアを提供できます。

得られる効果指標の例
売上/システムコスト
顧客満足度
ユーザー数/定着率等

© 2015 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.



⁵ Fortune, Best Workplaces for Millennials™ 2022

New Relic はエンジニアの力を解放し、新たなサービス開発や信頼性向上に自分の時間を当ててもらふことを可能にします。金融決済サービス、製造の IoT、MaaS、SaaS、小売、EC、ゲーム、SIと導入事業は業界を問うことはありません。実際 New Relic を使い障害発生から復旧まで 3日かかっていたところをわずか 1時間に短縮したり、5人必要だった SaaS の運用管理負担を 1/5まで軽減した事例など、エンジニアの生産性を高めることができます。

New Relic が提供するオプザバビリティを使って、運用役務の時間を減らし、サービスの開発や顧客満足度を向上させるためのサイクルに思う存分取り組んでいただきたい。

New Relic は日本が誇るエンジニアの能力を発揮するお手伝いをしていくことをミッションとしています。

New Relic 株式会社 社員一同



無料ライセンスを使う

New Relic は所定の利用規模を超えない条件に限り無料ライセンスを提供しています。

自動更新される従量課金契約ではなく、年間契約消費型の契約モデルを採用しているため、利用中に自動請求がかかることはありません。以下の URL からサインアップするだけで全機能を利用することができます。

newrelic.com/jp/signup



今すぐサインアップできます

New Relic 製品や使い方を学ぶ

New Relic は使い方や製品知識の習熟に必要なトレーニングを全て無償で提供しています。

基本的な製品利用を開始するためのハンズオントレーニングを毎週開催しており、いつでも New Relic のトレーニングを開始することができます。以下の URL で開催スケジュールを確認し登録することができます。

newrelic.com/jp/events/seminar

オンデマンドセミナー、ハンズオントレーニング

New Relic University 101 | [オンデマンドセミナー](#)

オブザーバビリティや New Relic の製品概要と基礎知識を学習

New Relic University 200 | [オンデマンドセミナー](#)

New Relic に含まれる3つの主要機能群を動画で説明

New Relic University 300 | [ハンズオントレーニング](#)

(エンジニア一般向け) New Relic を実際に操作し、主要機能について習得

New Relic University 400 | [ハンズオントレーニング](#)

(開発者向け) New Relic の開発者向け機能をハンズオンで学習

エンジニアのデモや価格詳細を問い合わせる

New Relic は実現できることが極めて多岐にわたります。自社環境であれば価格体系や導入方法はどうか？どんなことができるのか？導入に向けた疑問に関しては、一度 New Relic のエンジニアチームのデモを通じて理解することが早道です。以下の URL からデモリクエストや価格などあらゆるお問い合わせに対応しています。

newrelic.com/jp/contact-sales

よくあるお問い合わせのテーマ

課金体系について

購入するライセンス数やライセンスパターン

特定の技術条件について

オンプレミスでも導入可能なのか？利用している OSS 監視ツールと何が違うのか？

サポートについて

採用後にサポートはどの程度行われるのか？日本語サポートはあるのか？